



市役所の土木総務課では、市内小学校全校の四年生を対象に「下水道の出前授業」を行っています。下水道のしくみや役割について、オリジナルの教材を使って、わかりやすく説明します。

六月十九日には、大野原小学校で、下水道の出前授業が行われました。



手作りの教材を前に説明する加藤さん

下水道出前授業

各小中学校では、専門的な知識をもった人材や機関を活用し、子どもたちに直接授業をしていただく「出前授業」が行われています。

「出前授業」の活用

多様な学びを子どもたちに

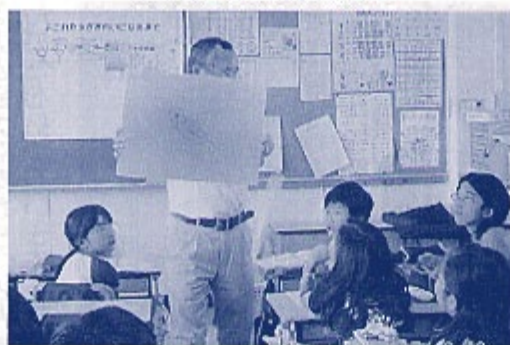
浄化センターから採ってきたばかりの「家庭から出たばかりのきれいな水」「川に流す前のきれいな水」の3種類の水が提示され、どの水が、微生物が汚れを食べた後の水



下水管の直径は3m。スズランテープを広げて大きさを体感しているところ。

クイズ形式で子どもたちに考えさせながら学習が進められました。

微生物の拡大写真を見る



微生物が汚れを食べている水はどれかな？

かを考えました。その後、水をきれいにしてくれる微生物の働きを知り、顕微鏡写真を見ました。

最後に、子どもたちからの質問に答えて、四十五分の授業が終了しました。

実際に見たり体感したりするので、見学するのと同様の学習効果が得られます。下水道の働きと大切さを実感できる授業でした。

六月十四日には、中央林間小学校で、「いじめ問題」について保護者と共に考える機会をもつという目的で「ジェントルハート講演会」が開かれました。対象は、五、六年生児童と保護者の皆さんです。

「ジェントルハート プロジェクト」は、いじめによる自殺で、娘を失った小森美登里さんが立ち上げたNPO法人です。「ジェントルハート」は、娘の香澄さんの言葉である「優しい心が一番大事だよ」からとったものです。

今回の講演会では、ジェントルハート プロジェクト理



講演中の武田さち子さん

ジェントルハート講演会

事の武田さち子さんがお話をしてくださいました。武田さんは、小森さんと同様に、幼稚園・小中学校の子どもたち・保護者・教職員を対象として、全国で講演を行っています。

「あなたがはじめたくなったら、どうしたらいいでしょうか」「あなたが、もしいいめられていたら、このように発信してください」など、はじめに對して具体的な例を示してくださいました。最後に、武田さんは「はじめは、心と体を深く傷つける、決して許されない行為です。皆さんは、やさしい種をまく仲間になつて！」と訴えました。

講演後、子どもたちは感想の中で「今日の講演会を聞いて、『優しい心をもつ大切さ』を知りました。」「いじめられている人を見ると、『かわいそう』と思っけれどやっばり『やめなよ』という勇気が出てきません。でも、いじめている人は、おかしいと思う。もっと自分から『やめなよ』という人になりたい。」「無視などもいじめになると思いますが、そういうことはすぐにやめたいと思います。」「という感想を書いています。

引地川 クリーン作戦



みんなで川に入ると、川の水に空気が入ります

六月九日には、福田小学校の六年生が、総合的な学習の時間に「引地川クリーン作戦」を行いました。福田小学校では、毎年六年生が引地川の清掃活動を行っていて、今年で九回目を迎えました。

活動の前に、「引地川 かわくだりの会」の鈴木恵美子さんと飯塚栄子さん、「引地川 水と緑の会」の五味尚生さんと荒井英之さんによる授業が行われました。

引地川をきれいにしたいという願いや取り組みが話された後、自分たちが行っている活動について具体的に説明されました。

続いて、引地川の生き物を

スライドで見ました。かつては絶滅寸前だったハグロトンボが清掃活動により増えてきたという話に、子どもたちは興味津々でした。



絶滅寸前だったハグロトンボ

次に、「引地川 水と緑の会」代表の荒井さんから、「どこに「ゴミが多くあるのか」「なぜ、川に「ゴミが捨てられているのか」「私たちにできることは何か」など具体的なクリーン作戦のお話や、川に入るべきの注意などを聞きました。



活動について説明する荒井さん

さて、いよいよ川に入って、クリーン作戦開始です。はじめはこわこわ歩いていて、なかなかゴミを見つけないことができなかった子どもたちも、慣れてくると、大きなゴミを拾うようになりました。保護者の方や、川岸にいる人と協力しながら、どんどんゴミを拾っていきました。



みんなで協力して、ゴミを拾います

最後には、学校へすべて持ち帰り、分別して捨てました。子どもたちは、身近な川に親しみをもち、楽しく活動していました。

活動後、子どもたちは「川をきれいにするために、ボランティアを進んでやることは、大変なことだと思います。その心がけを学びました。」

「引地川は思ったよりきれいになった。私たちがゴミを拾ったことで少しでもきれいになり、川にすむ虫や魚が増えてくれたらいいなと思います。」「大勢でそうじしたから、心強かったし、ゴミが早くなかった。」という感想を書いています。



大きなゴミ、危険なゴミは大人と協力して



ひざまで水につかりながらがんばりました。

東京ガス出前授業



「温暖化」についての説明を聞く

七月十二日に、下福田小学校で、五年生を対象に「資源」「エネルギー」「環境」をテーマにした参加・体験型の出前授業が行われました。東京ガスでは、平成十四年から、学校教育支援活動として、この



二酸化炭素を入れ、「温暖化」の実験開始

授業を行っています。

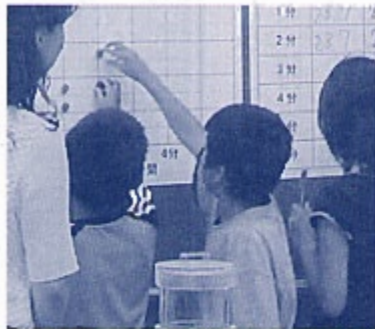
まず、写真や絵を使って「地球温暖化」の原因やしくみについて学習します。

その後、地球温暖化の模型を使って、実際に二酸化炭素がいかに地球の温度を上げているかを実験して確かめました。



「温暖化」の模型で実験する様子

実験の結果は、グラフにまとめ、二酸化炭素が大気中の温度を上げることがわかりました。



グラフにまとめ、温度変化を見る

次に、資源を外国からの輸入に頼っている日本の現状やエネルギーとしての「天然ガス」の有効性が説明されました。外国から天然ガスを運ぶためには、マイナスイオン162度に冷やし体積を減らして運ぶので、「マイナスイオン162度の世界」を実感するための実験も行われました。



液化窒素につけた花を取り出すと、花びらはこなごなになり、みんなびっくり!

子どもたちは、感想の中で「ふだん使っているテレビや冷蔵庫が二酸化炭素を出している、地球温暖化が進んでいるということがわかりました。」「地球温暖化を進めているのは、わたしたち人間で、それを防ぐために、これから節電・節水などに気をつけて生活していこうと思いました。」と書いていました。

つきみ野中学校軟式野球部

初の関東大会出場!



つきみ野中学校野球部「最後まであきらめない」をモットーに。

七月二十九日から八月二日にかけて行われた「神奈川県中学校総合体育大会軟式野球大会」で、つきみ野中学校野球部が準優勝を果たし、創部以来初となる関東大会に出場しました。

同野球部のモットーは「常に全力で」

レィで、最後まであきらめない野球」をすること。最後の夏の大会は、ピンチでも、野手だけではなく、ベンチも盛り上げて全員でゲームの流れをもつてくるようにがんばりました。また、先取点を取られても、気持ちを切らすことなく、自分たちのチャンスが来ることを信じて戦い、県大会決勝戦では、見事な逆転勝利を収めました。

これまでは県大会ベスト16が最高成績だった同部。今大会では寺井聖明・佐藤駿太の両三年生エースが好投し、準決勝までの三試合をすべて完封勝ちしました。

「春の大会が終わって徹底的に守備を鍛えなおした。その成果が出せた。」と宗岡龍太郎主将。決勝戦こそ0対1で惜敗したものの、出場四一八チームの中で準優勝という好成績を収め、初の関東大会への切符を手にすることができたのです。

地域との連携で、 楽しい活動がいっぱい

地域とのふれあいで健やかな育ちを

波博で地域のお店開店



六月六日に浪谷小学校で、「波博2007」が開かれました。

「波博」は、協力して楽しいお店を作ることにより、子どもたちの自主的・実践的な態度を育てる目的で、毎年行われています。

二、六年生は、自分たちで考えた手作りの物を出し、お店やゲームのお店を出し、一年生は、波博で使うお金「クズ券」を作りました。

体育館では、毎年、地域のお年寄りで組織する老人クラブ「高砂会」がお店を出しています。

高等町高砂会の会長、松本竜雄さんは、「六、七年前

から、生活科で子どもたちと一緒に遊んだり、ものを作ったりすることがありましたが、安全面から考えると、一緒に作る事がだんだん難しくなってきました。そこで、この波博で手作りの物を販売したり、自分たちで作った物と一緒に遊んだりすることにしました。」と話してくださいました。



気に入った品物を買う子どもたち

一個十クズで切い袋、置き、紙風船、おはじきなどを買うことができます。また、めんこ、けん玉、ピ―玉、空気でつぼう、ぶん

ぶんごまで遊ぶことができます。ぶんぶんごまは、柏の木でできています。



竹製の空気でつぼうは、うまく飛ばない

空気でつぼうは、竹製で、ぬらした新聞紙をちぎって、玉にします。玉の大きさをよく考えないと、うまく出ません。子どもたちは、何回も挑戦して、ちようど良い大きさを確かめながら、遊んでいました。



めんこが落ちないようにとばせるかな



みごとな竹細工のトンボ

子どもたちももちろんですが、波博を訪れた保護者や地域の大人の人たちも、なつかしそうに眺めたり、遊んだりしていました。

西鶴間小「遊友会」

子どもたちと一緒に楽しんじゃおう！

西鶴間小学校には、PTA父親等有志で組織する「遊友会」があります。子どもたちを対象とした様々なイベントを企画・実施しています。



笑顔が輝く「遊友会」のみなさん

今年度、五月には校庭の一角に

どのイベントも子どもたちの心に残るものばかりです。主催者のお父さん方も子どもたち同様、みんな笑顔が素敵で輝いていました。

「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽に読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

「こいのぼり」を、そして、七月には「七夕の短冊」を子どもたちと一緒に飾ってくださいました。

八月二十五日には、「流しそうめん大会&忍者大戦」をしました。前日は竹の準備、当日は、午前十時頃から仕込みを始めました。流れるのはそうめんだけでなく、プチトマトやお菓子等、楽しみがいっぱいでした。